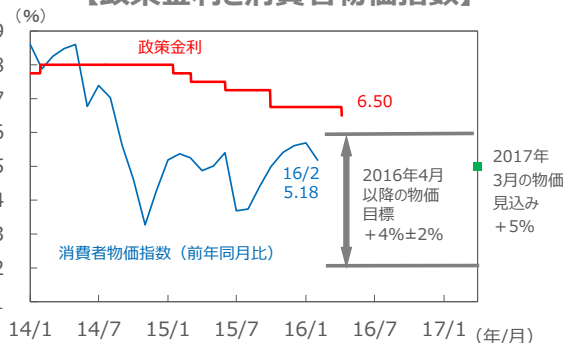


今日のトピック インドの金融政策（2016年4月） 政策金利を引き下げ。当面は緩和効果を見極めよう。

ポイント1 政策金利を0.25%引き下げ 市場予想通りの決定

- インド準備銀行（RBI、中央銀行）は5日、政策金利（レポ金利）を0.25%引き下げ、6.50%とする事を発表しました。
- 今回の利下げは市場予想通りでした。15年1月から始まった現在の利下げサイクルにおいて、昨年9月以来の、5回目の利下げとなります。

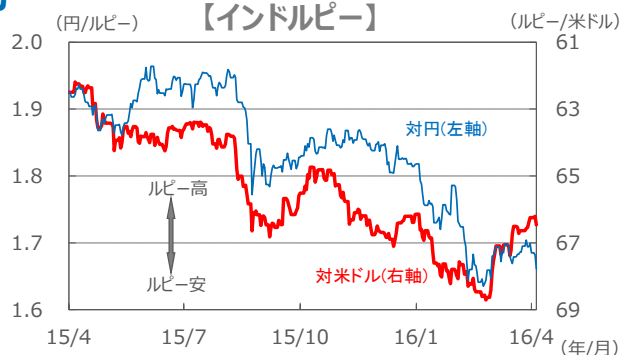
【政策金利と消費者物価指数】



ポイント2 金融政策のスタンスは緩和的 物価は安定、景気は緩やかと認識

- RBIは、消費者物価指数は今後緩やかに低下し、2017年3月のインフレ率は+5%に落ち着くと、従来からの見通しを維持しました。
- 景気については、消費主導で経済の拡大ペースが緩やかに加速すると見ているものの、輸出や投資に弱さが見られるとしています。RBIは、利下げを行う事によって企業活動の活性化を促すスタンスです。
- 金融政策のスタンスは緩和的で、今後数か月のマクロ経済・金融情勢を見守るとしました。

【インドルピー】



(注) 政策金利は2014年1月1日～2016年4月5日。
消費者物価指数は2014年1月～2016年2月。
物価目標はインド準備銀行（RBI）による。
インドルピーは2015年4月1日～2016年4月5日。
(出所) Bloomberg L.P.、RBIのデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

今後の展開 今回の緩和効果見極めのため、当面追加利下げは見送りへ

- RBIの見通しによると、今後の景気は、公務員給与の引き上げや金融緩和の継続による消費需要の拡大によって徐々に力強さを見せるものの、企業部門の弱さや輸出の弱さが懸念材料となりそうです。RBIは、先々の景気見通しを据え置き、上振れ/下振れリスクについては上下均衡しているとの見方を示しました。
- 公務員給与委員会は、昨年11月に公務員給与などを23.55%引き上げる勧告を行いました。政府はこの勧告をいつ、どの程度給与等に反映するか決定していないため、インフレ率の上昇圧力がどの程度となるか予測できません。RBIはこの点を認識しており、合わせて今回の緩和効果を見極めるため、当面、追加利下げは見送ると見られます。

ここもチェック! 2016年 3月16日 最近の指標から見るインド経済（2016年3月） 2016年 3月 7日 「予算案」でインド市場に期待高まる（インド）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。